

平成 28 年度 P D C A サイクルづくり支援事業 C 調査全県集計結果及び分析報告

教学指導課

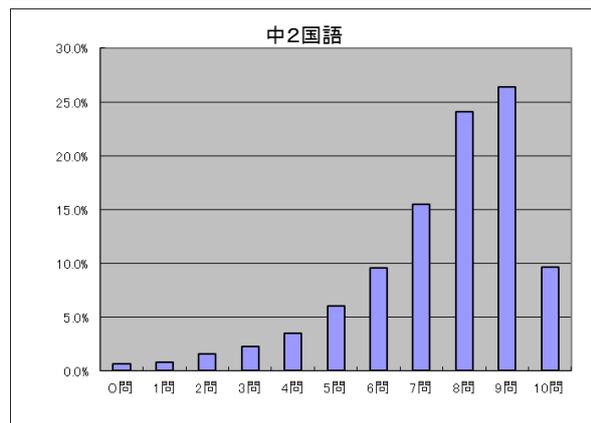
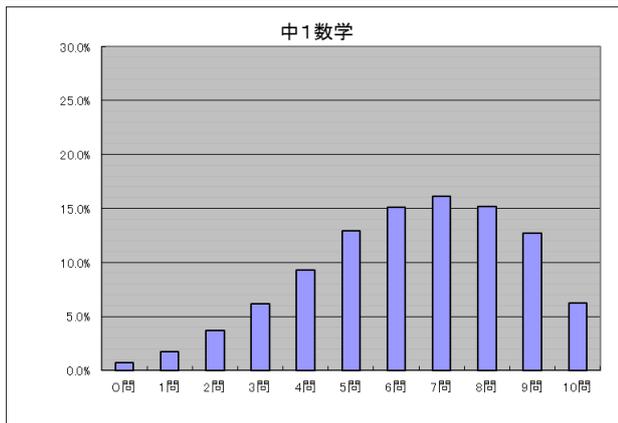
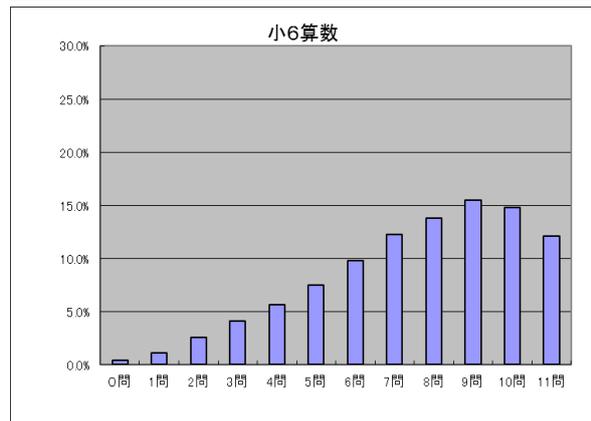
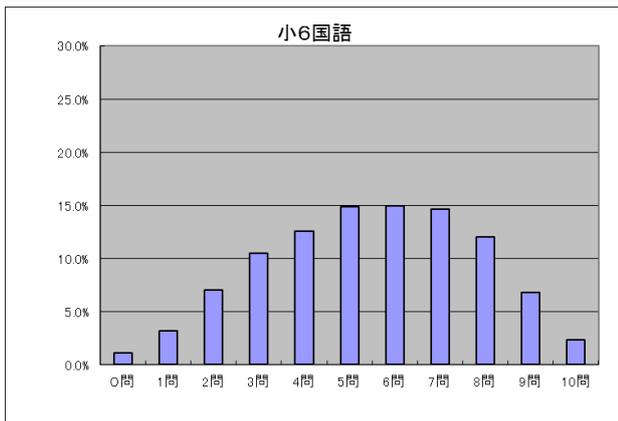
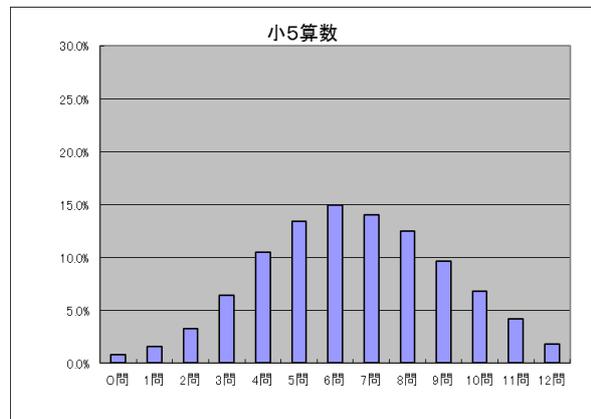
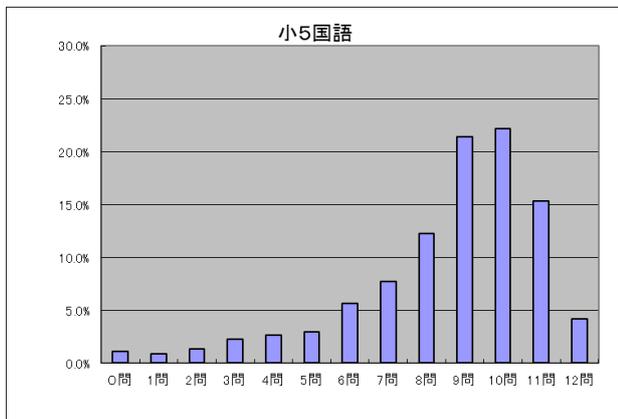
1 調査教科及び調査した児童生徒数

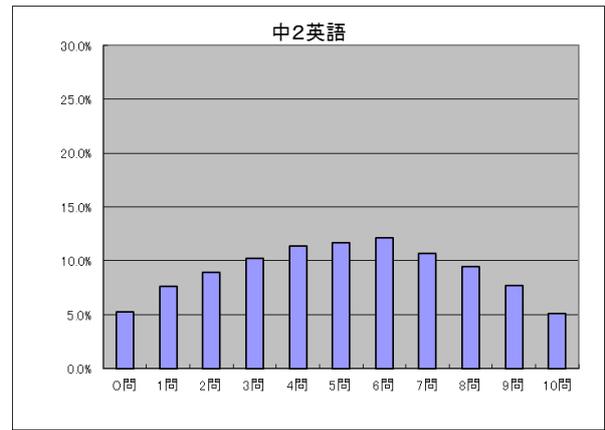
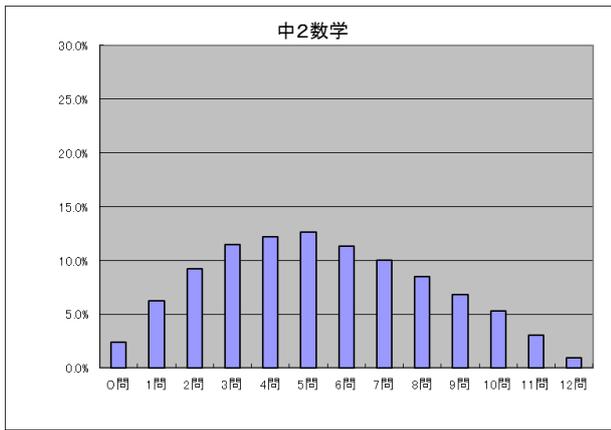
上段：参加人数 下段：参加校数

	国語	算数・数学	英語
小学校 5 年	14,839 人 (80.5%) 314 校 (86.5%)	14,840 人 (80.5%) 313 校 (86.2%)	
小学校 6 年	6,873 人 (36.3%) 160 校 (44.1%)	6881 人 (36.3%) 160 校 (44.1%)	
中学校 1 年		13,914 人 (74.3%) 158 校 (86.3%)	
中学校 2 年	14,476 人 (75.0%) 159 校 (86.4%)	14,224 人 (73.7%) 159 校 (86.4%)	14,426 人 (74.7%) 162 校 (88.0%)

(参考：全県 小5 18,434 人、小6 18,945 人、中1 18,717 人、中2 19,306 人、小学校 362 校、中学校 183 校、義務教育学校 1 校)

2 正答数の分布グラフ (単位%)





### 3 正答数の分布 (単位 上段：人、下段：%)

	0問	1問	2問	3問	4問	5問	6問	7問	8問	9問	10問	11問	12問
小5 国語	162	136	197	335	390	442	832	1148	1822	3173	3292	2273	619
	1.1	0.9	1.3	2.3	2.6	3.0	5.6	7.7	12.3	21.4	22.2	15.3	4.2
小5 算数	125	235	488	952	1551	1987	2221	2079	1857	1435	1011	619	265
	0.8	1.6	3.3	6.4	10.5	13.4	15.0	14.0	12.5	9.7	6.8	4.2	1.8
小6 国語	79	221	484	720	864	1020	1025	1007	825	469	160		
	1.1	3.2	7.0	10.5	12.6	14.8	14.9	14.7	12.0	6.8	2.3		
小6 算数	31	74	179	281	387	517	675	843	950	1066	1018	833	
	0.5	1.1	2.6	4.1	5.6	7.5	9.8	12.3	13.8	15.5	14.8	12.1	
中1 数学	97	238	517	855	1297	1799	2099	2247	2116	1767	863		
	0.7	1.7	3.7	6.1	9.3	12.9	15.1	16.1	15.2	12.7	6.2		
中2 国語	89	115	231	331	510	873	1379	2244	3487	3818	1399		
	0.6	0.8	1.6	2.3	3.5	6.0	9.5	15.5	24.1	26.4	9.7		
中2 数学	342	889	1307	1628	1735	1800	1606	1423	1212	970	749	429	135
	2.4	6.3	9.2	11.4	12.2	12.7	11.3	10.0	8.5	6.8	5.3	3.0	0.9
中2 英語	752	1097	1284	1476	1637	1685	1747	1542	1362	1104	731		
	5.2	7.6	8.9	10.2	11.3	11.7	12.1	10.7	9.4	7.7	5.1		

4 各問の正答率（単位％） ◇活用に関する問題、そのほかは知識に関する問題

小5 国語	1①	1①	1②	1②	1③	1③	1二 ◇	2一 ◇	2二 ◇	太田	三村	今井
	89.8	85.2	88.2	77.8	89.4	87.5	51.6	16.7	30.2	80.5	77.4	81.6
小5 算数	【1】 (1)	【1】 (2)	【1】 (3)	【1】 (4)	【2】	【3】 (1)	【3】 (2)	【4】	【5】 (1)	【5】 (2)	【6】 ◇	【7】 ◇
	79.8	88.9	71.9	80.4	47.8	15.8	50.3	28.8	49.0	71.5	24.9	38.8
小6 国語	1一	1二	1三	1四 ◇	2一	2二	2三	2四 (1)◇	2四 (2)◇	2五		
	65.2	56.2	54.8	34.0	46.9	58.9	54.2	47.8	61.2	66.8		
小6 算数	【1】 (1)	【1】 (2)	【1】 (3)	【2】	【3】	【4】	【5】	【6】	【7】 (1)◇	【7】 (2)◇	【7】 (3)◇	
	70.0	69.1	70.8	66.1	73.2	69.8	57.3	76.3	90.4	85.5	30.1	
中1 数学	【1】 (1)	【1】 (2)	【2】	【3】	【4】	【5】	【6】	【7】 ◇	【8】 ◇	【8】 (2)◇		
	83.6	85.9	68.3	60.3	65.4	20.8	43.0	80.2	73.6	50.7		
中2 国語	1一	1二 ◇	1三 ◇	2一	2二 ア◇	2二 イ◇	2二 ウ◇	3一 ◇	3二	3三		
	89.3	29.6	85.3	70.7	87.6	79.1	74.0	90.6	71.8	69.5		
中2 数学	【1】	【2】	【3】	【4】	【5】	【6】	【7】	【8】	【9】 (1)◇	【9】 (2)◇	【10】 (1)◇	【10】 (2)◇
	23.3	20.6	55.6	43.5	75.0	21.9	63.7	63.1	25.4	62.2	33.4	48.3
中2 英語	【1】	【2】	【3】 太陽	【3】 林檎	【3】 兎	【4】	【5】	【6】 ◇	【7】 ◇	【8】 ◇		
	57.3	64.8	62.3	68.4	72.0	61.1	37.7	27.8	24.4	27.2		

5 知識に関する問題と活用に関する問題の正答率（単位％）

	小5国語	小5算数	小6国語	小6算数	中1数学	中2国語	中2数学	中2英語
知識に関する 問題	<b>84.1</b>	<b>58.4</b>	<b>57.6</b>	<b>69.1</b>	<b>61.0</b>	<b>75.3</b>	<b>45.8</b>	<b>60.5</b>
活用に関する 問題	<b>32.8</b>	<b>31.8</b>	<b>47.7</b>	<b>68.6</b>	<b>68.1</b>	<b>74.4</b>	<b>42.3</b>	<b>26.5</b>

活用に関する問題の平均正答率が低い教科が多い。特に、記述式の問題の正答率が低い傾向が見られる。次項から示す各教科・学年の課題と指導改善の方向を参考にして、授業改善を進めていきたい。

知識に関する問題では、一部で定着が不十分なものが見られる。C調査問題は、今年度の学習内容なので、補充・補完指導を速やかに行い、児童生徒が確実に理解できるようにすることが必要である。確かな理解を深める授業を行っていくとともに、クリア問題、レビュー問題等（総合教育センターホームページ「学びの広場」参照）を活用して、さらに確実に学習内容を定着させることが必要である。

## 6 各教科・学年において課題となる問題と指導改善の方向

### (1) 小学校5年国語

1二 正答率 51.6%

#### ①課題

場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら音読すること。

- ・声に出して読むときの工夫は書いているが、場面の様子や「ぼく」の気持ちについて想像したことを理由として取り上げていない児童が約30%いる。

#### ②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成27年度全国学力・学習状況調査B3二 66.8%      ・平成28年度P調査1二 46.4%

#### ③指導改善の方向

- ・物語の魅力などが伝わるように音読するためには、場面の移り変わり、登場人物の行動や気持ちの変化を、叙述から捉えることが重要である。その際、自分のもっている知識や経験などと結び付けながら、繰り返し声に出して読むことで、想像を広げたり理解を深めたりすることができると考えられる。

- ・授業では、以下の点を大事にしましょう。

①音読は、学習の「目的」となる場合と、学習の「手段」となる場合があります。単元を構想する際には、音読をどう位置付けるのか、指導目標と照らし合わせながら考えましょう。

②児童が繰り返し音読することを通して、声の大きさや質、読む速さ、間の取り方などの観点に気付くようにしましょう。

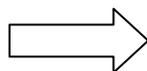
③音読の工夫をする時には、「どうしてそのように音読したのか」と児童に問い、その根拠を叙述から考えさせることも必要です。

④教師がモデルとなって、様々な音読の仕方を示すことも有効です。

⑤児童が自分の感じ方に合う音読の仕方を見つけることができるように、声に出して読むことを繰り返しましょう。

このような学習を通し、児童が音読の楽しさを味わえるように指導しましょう。

補充・補完指導をしましょう



チャレンジ問題:小6 1月

2一 正答率 16.7%

#### ①課題

調べる内容を見通して、必要な事柄を整理すること。

- ・【報告文】と【メモの一部】から、調べる内容を見通して、箇条書きの一つ目の項目を捉えることができない児童が約80%いる。

#### ②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成21年度全国学力・学習状況調査B1一 11.5%      ・平成28年度P調査2三 34.3%

#### ③指導改善の方向

- ・報告文を書く目的に基づいて調査する内容を項目立てて整理することが重要である。

- ・国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても、様々な文章や表、グラフなどの資料から必要な情報を収集する能力が必要になる。

- ・授業では、以下の点を大事にしましょう。

- ①全体を見通して書く事柄を整理することが重要です。そのためには、**目的や意図を踏まえて、事柄を収集・選択した上で、構成したり、記述したりすることが必要になります。**また、記述の段階においては、**必要に応じて書く事柄を再度収集していくことも大切**にしましょう。
- ②報告文を書くためには、目的や意図に応じて調べ、**事実に基づいて分かったことや考えたことを書く必要があります。**そのためには、**自分の意見の根拠となった事実と、自分の意見そのものを区別して書く指導**が大切です。

## 2 正答率 30.2%

### ①課題

目的や意図に応じて、事象や意見などを関係付けながら書くこと。

- ・報告文の「一 調べた理由」に書かれている内容と結び付けて書いていない児童が約35%いる。

### ②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成21年度全国学力・学習状況調査B **1** 17.8%      ・平成28年度P調査2四 51.7%

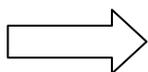
### ③指導改善の方向

- ・報告文を書く目的に応じて、調べて分かった結果と調べた理由とを関係付けて書くことが重要である。
- ・各教科等の学習や日常生活においても、報告文の種類や特徴に応じて、様々な文章や表、グラフなどの資料を関係付けながら自分の考えを表現する能力が必要になる。

- ・授業では、以下の点を大事にしましょう。

- ①調査をして自分の考えを伝えるためには、**文章だけでなく、調べたことを図解したり、表やグラフを用いたりすることが効果的**です。
- ②目的や意図に応じて、自分が考えたことを明確に表現するために、**文章と資料とを関係付ける指導**を大事にしましょう。

補充・補完指導をしましょう



チャレンジ問題:小5 9月

## (2) 小学校5年算数

【3】(1) 正答率 15.8%

### ① 課題

量の単位や測定の意味等について理解すること。

・主な誤答例 2.25m<sup>2</sup>の長方形の面積を225cm<sup>2</sup>と答えた誤答が41.5%。

### ② 指導改善の方向

この調査を受けた児童への補充・補完

レビュー問題:小4 ⑩1、2、3

#### これから学習する児童への指導

小学校4年

・教科書下P10,11「大きな面積」

面積を求める式は、単位面積の個数を求めるための式であることを確認することが必要です。1m<sup>2</sup>は、1cm<sup>2</sup>がいくつ分か考える場面を設定し、具体物や図を利用しながら、式と結び付けて、言葉で説明する活動を取り入れましょう。その際、1m<sup>2</sup>は、1cm<sup>2</sup>の正方形を縦1m、横1mの正方形の中に敷き詰めた個数が縦、横それぞれ100個ずつあることから、100×100個で求められる事を確実に理解する必要があり、量の大きさについての感覚を育てるよう配慮しましょう。

【4】 正答率 28.8%

### ① 課題

伴って変わる二つの数量について、関係を表にまとめ、変化の規則性を読み取ること。

・主な誤答例 数量の関係のとらえが不十分であるため、8回と答えた誤答が57.2%。

### ② 指導改善の方向

この調査を受けた児童への補充・補完

レビュー問題:小4 ⑮1

クリア問題:小5 6月①4

H19全国学力・学習状況調査:A7

#### これから学習する児童への指導

小学校4年

・教科書下P80「変わり方」

図を基に表をつくり、増え方に着目してきまりをみつけることができるようにしましょう。表を縦に見て○や△を使って式に表してみたり、表を横に見て変わり方をみつけたりして、変わり方を調べるときは、表が便利であることを実感する活動を取り入れましょう。

【6】 正答率 24.9%

① 課題

示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述すること。

・主な誤答例 説明が不十分であるため、正答条件3つのうち、1つ不足している誤答が24.1%。

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童への補充・補完

授業アイデア例:H28 P13

これから学習する児童への指導

日々の授業で

図や式などを用いて問題を解決し、児童が互いに図や式の意味を解釈し説明し合う活動を設けましょう。

例えば、四角形の4つの角の大きさの和が $360^\circ$ になることを考える場面において、 $180 \times 2$ や $180 \times 4 - 360$ などと表現された式の意味について図に表しながら解釈し、説明し合う活動が考えられます。その際、「なぜ360をひくのですか」と問い返すなどして、式の意味について説明できているかどうかを、児童同士が確認できるようにしましょう。

【7】 正答率 38.8%

① 課題

条件を変えた複数の図形で、体積が等しいことの理由を言葉や式や図を用いて説明すること。

・主な誤答例 説明が不十分なため、正答条件を満たしていない誤答が23.3%。

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童への補充・補完

H27P調査:小5【7】

チャレンジ問題:小5 3月①

これから学習する児童への指導

小学校4年

・教科書下P8、17「面積の求め方の工夫」 教科書下P88「直方体と立方体」

○条件不足の解答をもとに、どんなことを書くと、正しい説明になるのかを話し合ひましょう。また、書かれた説明を評価改善する大切さを実感できるように指導を工夫しましょう。

○求める図形の中に、既知の図形とのつながりを見いだし、求めやすい形にすることで問題解決できる活動を位置付けましょう。

### (3) 小学校6年国語

1四 正答率 34.0%

#### ①課題

話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問すること。

- ・【事前に準備したインタビューメモ】の内容について質問することはできているが、直前の発言を受けて書くことができていない児童が、約17%いる。
- ・30字以上、50字以内の一文にまとめて書くことができていない児童が約10%いる。

#### ②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度全国学力・学習状況調査B 1三 31.4%
- ・平成27年度P調査 3 31.2%

#### ③指導改善の方向

- ・聞くことを受動的な行為とのみ捉えるのではなく、自ら学び、課題を解決していくためのより主体的な行為として捉えて指導することが重要である。必要に応じて聞き返したり、相手の話の内容を確認したり、補足説明を加えたりするといった聞き方を指導し、話し手と聞き手とが補完し合うことによって、より効果的な情報の伝達が実現するということを児童が実感できる必要がある。

授業では、以下の点を大事にしましょう。

- ①日常的な場面を提示して、相手の話を受け、どのような言葉で返すことができればよいかについて具体例を挙げさせたりすること。
  - ・「…ということですが…ですか。」のように、相手の話の内容を確認した上で質問する。
  - ・「…ということは、…ですか。」のように相手の話の内容を言い換えて、確認するために質問する。
  - ・「わかりました。…はどうでしょうか。」のように相手の話の内容と関係付けて質問する。
- ②話す・聞く活動を児童にとって課題解決の過程となるように位置付けること。
- ③自分の話す・聞く活動を振り返り、よかった点や改善すべき点を明らかにできるようにすること。

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題:小6 3月

2一 正答率 46.9%

#### ①課題

グラフを基に、分かったことを的確に書くこと。

- ・グラフを基に、文章と関係付けながら、分かったことを的確に書くことができない児童が約53%いる。

#### ②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成25年度全国学力・学習状況調査A 4 48.4%

#### ③指導改善の方向

- ・図表やグラフなどを読み、分かったことを的確に書くには、情報を正しく読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて記述することが重要である。そのためには、社会科や算数科などの授業

で学習した図表やグラフの読み方を生かし、読み取ったことを的確に表現することができるように指導していくことが大切である。また、自分の考えを伝えるための根拠として、文章の中で図表やグラフなどを用いている場合は、文章と関係付けながら、図表やグラフなどを読む必要がある。

#### 【図表やグラフなどをよみ取る際のポイント】

- ① 何を表す図表やグラフなのか
- ② 図表やグラフの中にあるそれぞれの情報は何を表しているか
- ③ どの言葉や数字に注目するのがよいか
- ④ 注目する言葉や数字は何を意味するのか

授業では、以下の点を大事にしましょう。

- ① 図表やグラフの内容が文章のどこに取り上げられているのか、図表やグラフがあることによって文章がどのように分かりやすくなっているのかなど、文章と図表やグラフなどとの関係やその効果を捉えることができるように指導すること。
- ② 図表やグラフなどを用いる方法やその効果を理解した上で、文章を書く際に、図表やグラフなどを効果的に用いることができるように指導すること。

補充・補完指導をしましょう

クリア問題：小6 5月

## 2四（1） 正答率 47.8%

### ①課題

目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書くこと。

- ・平成28年全国学力・学習状況調査B【2】とほぼ同じ内容の問題である。図に示された内容と、それに関連する文章の内容を的確に読み取って自分の考えを書く際に、中心となる文や言葉を捉えられない児童が約37%いる。
- ・無回答の児童が約6%いる。

### ②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成27年全国学力・学習状況調査B【2】三 40.0%
- ・平成25年度P調査【5】 13.0%

### ③指導改善の方向

- ・自分の考えを書く際には、示すべき事実が図解されていたり、表形式やグラフ形式で示されていたりした方が、読み手に伝わりやすい場合がある。活動報告文に、自分の考えとして、活動に取り組んだ成果や課題などを書く場合には、活動の成果や、課題の根拠や理由となる図表やグラフなどを基にして自分の考えをまとめ、それらを用いながら書くことで、読み手への説得力が高まると考えられる。

授業では、以下の点を大事にしましょう。

- ① 児童が「自分の伝えたいことと合う図表やグラフなどを活用することで、説得力が生まれること」を自覚できるように指導すること。
- ② 図表やグラフを用いて自分の考えを書く際には、自分が選んだ図表やグラフは、伝えたいことに合っているかを考え、それから読み取ったことを分かりやすく書いて自分の考えが伝わるように書くこと。

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題：小6 9月、10月

(4) 小学校6年算数

【5】 正答率 57.3 % (平成28年度全国学力・学習状況調査 46.2%)

① 課題

1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解していること。

・主な誤答例

基準量と比較量の関係が正確にとらえられず、アに80、イに100を記入した誤答。

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童への補充・補完

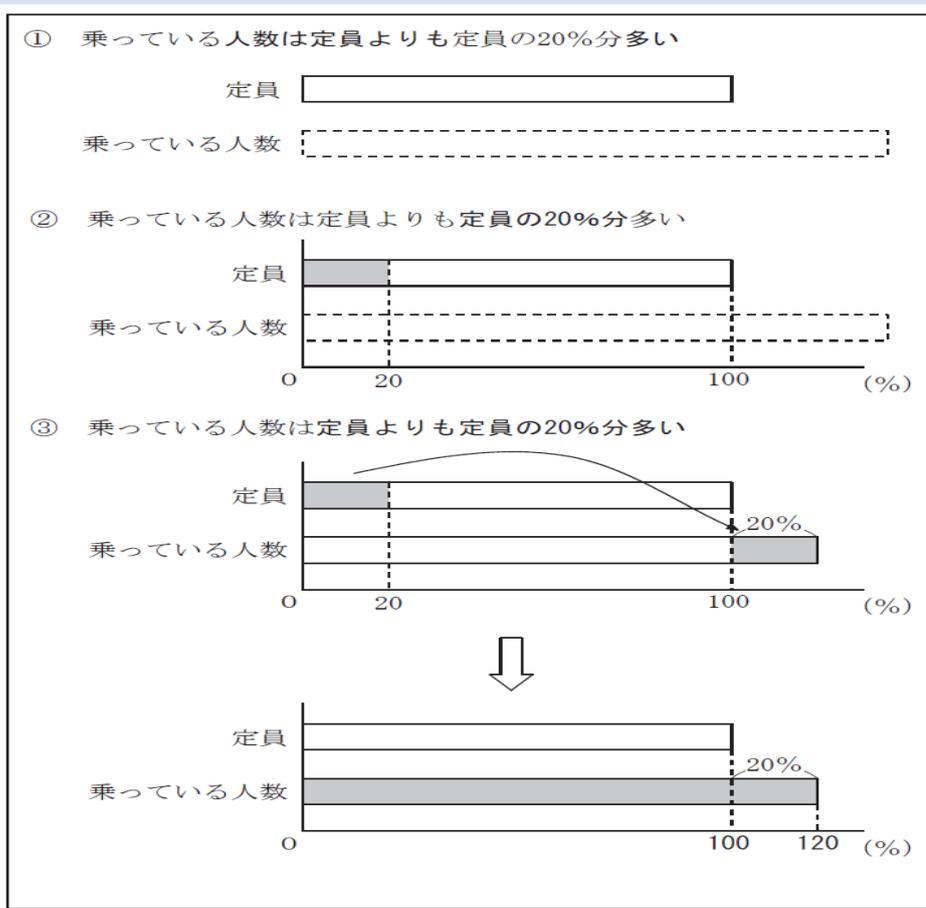
レビュー問題:小5 ⑬1~4  
H27C調査:【5】

これから学習する児童への指導

小学校5年

・教科書P168 「割合」

何が基準量にあたるのかを意識させ、基準量と比較量の関係を数直線などを用いて捉える場面を設定していきましょう。例えば、下のように、問題場面を図を用いて丁寧に確認する場を設けることが考えられます。



【7】(3) 正答率 30.1% (平成21年度全国学力・学習状況調査 17.9%)

① 課題

割合の大小を判断し、その理由を数学的に表現すること。

・主な誤答例

それぞれの月の全体の重さをもとにしたペットボトルの重さの割合の意味が十分理解できずに、ペットボトルの重さが同じであることをもとに、ペットボトルの重さは4月も6月も同じであると誤答した割合が39.1%。

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童への補充・補完

チャレンジ問題:小5 6月①  
レビュー問題:小5 ⑬1~4

これから学習する児童への指導

・小学校5年

割合には基準量と比較量の二つの量が関係していることが理解できるようにすることが大切です。例えば、割合が(比較量)÷(基準量)で求められることをもとに、2つの量が関係していることを確認したり、割合を求める計算式を書いたり、実際に計算して割合を求めたりして、二つの量から割合を算出していることを確認したりする活動を取り入れましょう。「ペットボトルの量が4月も6月も同じ20kgだから、割合も同じ」と考えている児童には、4月と6月のペットボトルの割合を求める式を書かせたり、割合を求めさせたりして、実際に割合が異なることを確認できるような場を設けましょう。

また、例えば、下のような円グラフや数直線を書く活動を取り入れ、基準量が小さい4月の方が、ペットボトルの割合が大きくなっていることを実感できるようにすることも考えられます。

